

多摩支部会報第 75 号

MEIJI UNIVERSITY
ALUMNI ASSOCIATION

新春号

2026 年 2 月 1 日発行

やっぱり 明治が NO.1 !

明治大学ラグビー部、全国大学ラグビー選手権で優勝
～14 度目の大学日本一に輝く～

2026 年 1 月 11 日（日）、国立競技場で行われた第 62 回全国大学ラグビーフットボール選手権大会の決勝で、明治大学が早稲田大学と対戦し、22 対 10 で勝利。7 年振り 14 度目の日本一に輝いた。



国立競技場の電光掲示



試合後インタビューに答える神鳥監督

写真：明スポ [MeijiNOW](#)

明大は、田代大介選手（3年）と伊藤龍之介選手（3年）がトライを挙げ、11点リードで前半を折り返した。後半に大川虎拓郎選手（3年）のトライで突き放すと、堅い防御で相手の反撃をしのいだ。早大はスクラム、ランアウトで劣勢となり、2大会連続で、決勝で敗れた。

後半終了間際、早大にゴール前まで攻め込まれても、紫紺のジャージーをまとった選手たちは体を張ってしぶき続けた。最後はタックルを受けた早大の選手が落球してノーサイド。

明大フィフティーンは拳を突き上げ、喜びを爆発させた。今季のチームスローガンは「完遂」。決勝に向け、相手の陣形をよく見て合わせるように動く「ミラー」の防御をこの1週間磨いてきたという。一枚岩になって早大の突破を許さず、更にダブルタックルでランナーの自由を奪ってミスも誘った。

主将の平翔太（4年）は、「80分間隙を見せずにやりきれた」と語る。例年よりミーティングに時間を割く時間を長くし、部全体で一体感と戦術理解度を高めてきた。

3年生の伊藤龍之介選手は「今までの明治は個々の力はすごく高いのに、チームとしてまとまり切れなかった。今季は一人一人が、チームとしてやるべきことをやり続けた。これが粘り強いディフェンスにつながった。」と言う。

決勝で早大を破っての優勝は、OB の神鳥監督が現役だった 1996 年度以来。今季は関東対抗戦の初戦で筑波大に敗れる苦しい滑り出しだったが、指揮官は「この大舞台で、一番大事な試合で自分たちの持っている最高のパフォーマンスを出せた。部員全員を誇りに思う」。王座から遠ざかっていた名門が、ワンチームになって日本一を奪還した。（2026 年 1 月 12 日付「読売新聞」から転載）



逆転トライを決める田代大介選手



コンバージョンキックを蹴る平翔太選手



相手の守備をかわし、トライを決める大川虎拓郎選手



ラインアウトを決める選手たち

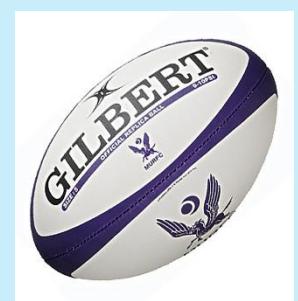


写真 : MeijiNOW

注目のラガーマン 伊藤龍之介選手 ～取り戻した伝統校のプライドを継承～

3年生司令塔の明大・伊藤龍之介が躍動した。7-3の前半33分、敵陣22メートル内でボールを持つと整っていない早大守備網へと突進。華麗なステップですり抜け、トライした。相手を突き放す貴重な追加点で、7大会ぶりのVに貢献し、「実感がまだないけど、すごく気持ちがいい。やってきたことが報われるって。こういうことなんだな」と喜びに浸った。

3年生ながら、神鳥監督が「チームリーダーが平翔太主将なら、ゲームリーダーは、伊藤」と全幅の信頼を置く存在だ。ミーティングでも積極的に発言しチームのまとめ役にもなる。「平翔太さんはプレーで見せてくれる。だけど、しゃべるのはそれほど得意ではないので、試合の持つべき方やプランは、僕を中心に説明している」と伊藤。グランド上でタクトを振る10番に、指揮官は「彼は、替えのきかない選手。これからの成長が楽しみ」と最大限の賛辞を送る。

一昨年から、日本代表のエディー・ジョーンズ・ヘッドコーチ(65, HC)が主導する育成プログラム「タレント・スクール」にも参加。ジョーンズHCも「いい10番がいる」と楽しみにする21歳だ。プログラムでは「一回のミスで（精神的に）落ちる必要はない。いろいろ（武器）を持っておいた方がいい」と助言をもらった。これまで得意としていたランに加え、3次攻撃で前へ進めなかつたらキックを使うなど、パスを含めて成長してきた。

明大は来季、V2がかかる。ハイボール確保で出色の出来を見せた2年生のWTB白井瑛人ら下級生も心強い。「2連覇というのは難しくなると思うけど、そこに向けてまた一から、頑張ればいいかな」と伊藤。取り戻した伝統校のプライドを継承していく。(2026年1月12日付「スポーツ報知」より転載)



写真: Photo by ALTAKAYAMA

□伊藤 龍之介 (いとう・りゅうのすけ)

2004年11月20日生まれ。神奈川県出身。21歳。3歳でラクビーを始め、リーグワン1部のBR東京に在籍する3歳上の兄・耕太郎と同じ藤沢ラクビースクールと国学院栃木高に進む。花園は3年連続出場し、2年時は10番で栃木県勢初の決勝進出。23年に明大に入学し、2年時に20歳以下の日本代表に選出。ポジションはSO, CTB。170センチ。79キロ。

写真：明スポ MeijiNOW



一瞬の隙を逃さず、走り込んだ伊藤龍之介選手



チーム一丸となって大学日本一を成し遂げた。



□2026年第23回多摩支部定時総会

(2025年第22回多摩支部定時総会)

開催日：2026年6月28日（日）

開催場所：ホテルエミシア東京立川（昨年と同じ場所）

第23回多摩支部定時総会実行委員会

昭島・国立・青梅・国分寺・清瀬の各地域支部

実行委員長 永代 達三（清瀬地域支部長）

国分寺地域支部 恒例の「新年会」～紫紺の旗の下、絆を深めた一日



国分寺地域支部の恒例行事の「新年会」が、2026年1月24日（土）、JR国分寺駅南口の「北海道」で開催しました。

開催時間は、昨年同様皆様の足の便等を考慮し、昼の時間帯、12時～14時までとしました。

本年も昨年同様、30名の多くの皆様にご参加いただきました。恒例の「bingoゲーム」では、参加人数以上の数の多数の景品のご寄付を頂き、大いに盛り上りました。初めてご参加頂いた方、1年振りにお会いした方、更にはお子さんと一緒にご参加いただいた方など、皆様と「紫紺の旗」の下、絆を深めた一日でした。 (記・写真：佐々木一郎)



「bingoゲーム」の景品



親子（明中入籍）で参加



麻雀教室表彰式

素晴らしい人生

It's a Wonderful Life

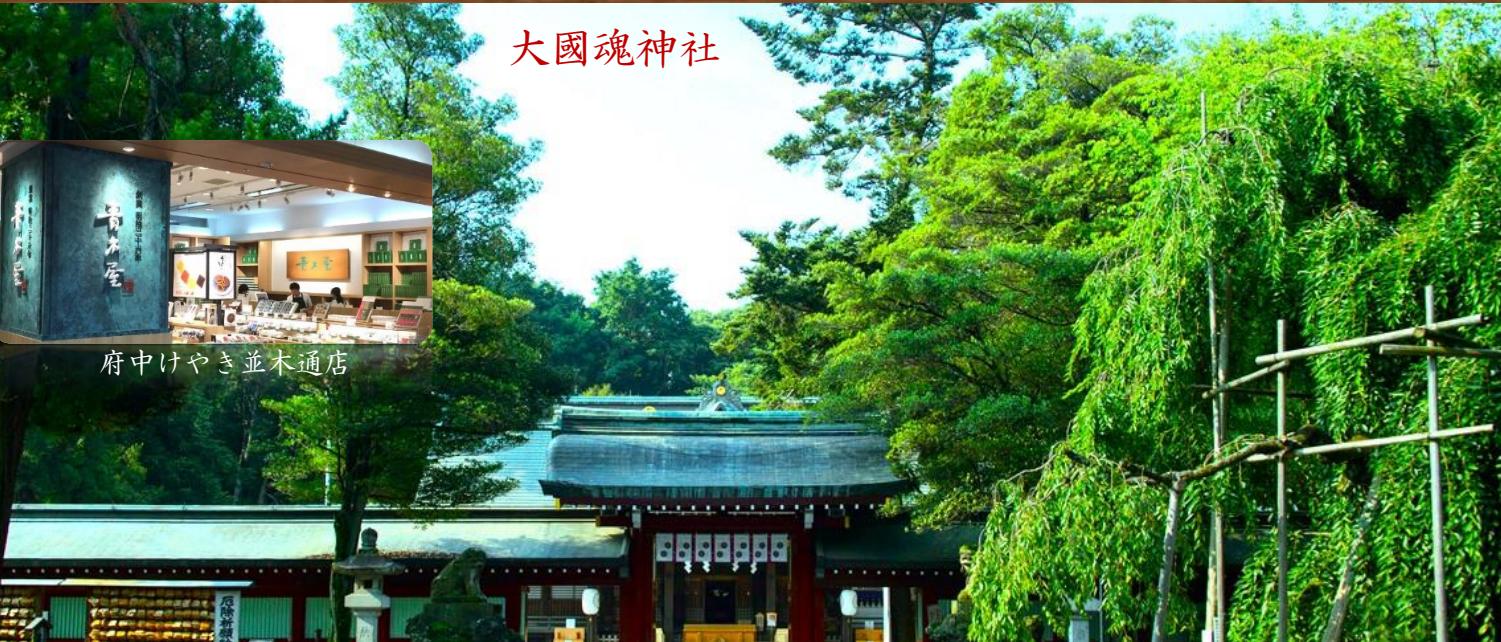
～多摩支部の皆様のご寄稿から

井上博正（府中地域支部 昭57・商）

大國魂神社



府中けやき並木通店



青木屋は、明治二十六年に創業し、130有余年。その始まりは、大國魂神社の境内での万頭の商いでした。



青木屋



2026年は、うま年



初めてまして、1976年（昭和57年）卒業の「菓子の青木屋」の井上博正です。²⁴ 丑年です。6月に舌がんで、13～14時間の手術をし、その後、7週間、抗がん剤と放射線治療で、現在もまだまだの状態です。11月に第一閥門は突破、1月に第二閥門突破、一年間は、3ヶ月毎に、その後は半年ごとの検査とのこと、取り敢えず生き残りました。癌のレベルが、ステージ3～4とのことで、このままアウトになる可能性もあるかと、人生を振り返ってみたら、大学時代がいろいろなことの岐路だったような感じで、びっくりしました。

その一つ目は、学園紛争で授業も試験も無くなつた1年生の終わり頃に、親父から会社にオフコンを入れるのだが、やる奴がいないので、お前がやってくれるかと言われ、他の人が出来ないことは、面白うなのでやろうと、NEAT3系でソフトを組んで、学校の簿記の授業より先に、経理、給与、工場出荷システム等を立ち上げました。その後は、COBOLや通信系アッセブラーで、20年ぐらい前までは、現役でいじっていました。

二つ目は、2年次？に取った講座が、清水明教授の「新商店経営論」、この厚い本の一気読みは、初めての経験でした、その後、言葉が判る？？ということで、商業界の二世の団体の会長や、税務関係の団体の青年部の初代部会長を知らない間になつてたり？？。

旨く利用して全国を歩き回って、情報収集？？をしておりました。

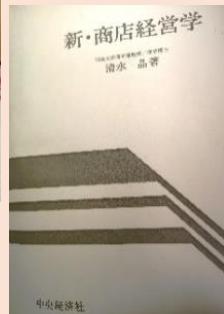
その関係で？、街では生意気に、色々、剛速球やピンボールを投げるものですから、今回の病気で、何とか逃げることが出来ましたが、商工会議所の副会頭やら、法人会の副会長やらを仰せつかつてしましました。

三つ目は、大学3年次の終りに、1ヶ月の欧洲貧乏旅行、別ツアーでかみさんと知り合い、ローマ空港で撮ったピンボケ写真の交換は、「江川を倒せ、オー」の神宮球場！！！一気に明治と法政は変な学校と烙印を押されました。

知り合つて50余年、結婚して47年、金婚式は、付き合ってくれるのでしょうか？？？
「一人で行って来たら」と云われそう？。



汐盛講（大國魂神社
くらやみ祭りの神事）



清水明教授著「新商店経営論」

Essay



高校の同級生 5 人で行く 12 日間の 「アメリカ旅行記」

～アメリカを自分の目で見て、貴重な経験・体験が出来た素晴らしい旅行でした。

綿屋 勝次（小平地域支部 昭 52・商）



今年のワールドシリーズは、7 戦までもつれドジャースの劇的な優勝で終わり、山本投手がワールドシリーズ MVP に選ばれ、11月 13 日には大谷選手が 4 度目の MVP に選ばれました。去年、大谷選手の活躍を見て、是非口サンゼルスにドジャースの試合を見に行きたいと思い、今春に高校の同級生 4 人でアメリカ旅行を決めました。



9月 18 日、仲間 3 人と羽田の国際線で待ち合わせをして、4 人で口サンゼルスにいざ出発。ちなみに、羽田空港第 3 ターミナル国際線の大屋根は同じ高校の同級生が設計したとの事で、先日彼に会う機会があり、聞いたら富士山の裾野をモチーフにデザインしたそうです。フライトは 10 時間の窮屈な機内でしたが、2 度の食事と映画のおかげで、退屈せずに済みました。口サンゼルス空港では、事前に自分でパソコンで登録した ESTA (電子渡航認証) がちゃんと出来ているかドキドキの入国でした。

空港では、アラスカに住んでいるもう一人の同級生が迎えに来てくれて、総勢 5 人の旅行となりました。アメリカはタクシーより値段の安いウーバーが主流で、移動はほとんどウーバーです。ウーバーはスマホのアプリで登録し、手配も簡単に出来ます。

ホテルに着くなりトラブル発生、5 部屋予約したつもりが、4 部屋分しか出来て無く、「さあどうしようでしたが、部屋のベッドはキングサイズ、2 人寝ても十分な広さなのでまあいいか」と満室の 3 日間は、持ち回りの仲良し添い寝で、何とか問題解決。ホテルは、ダブルツリーヒルトンでほぼ日本からの観光客でいっぱいでした。

夜は明大多摩支部の先輩の息子さんが、時事通信社口サンゼルス特派員でスポーツ担当をしているので、話が出来ればとホテルで面会して、ドジャースや大谷選手、山本投手、佐々木朗希投手の色々なおもしろい話を聞く事が出来ました。彼は日本人記者の中で唯一 MVP の投票権持っているそうです。街に出て歩いてみると、なんと自動運転のドライバーのいない「無人タクシー」がお客様を乗せて走っていました。アメリカは進んでいる事を痛感、日本はいつになるのだろうか。翌日から、ドジャースの試合を 2 試合観戦、9 月 19 日の試合は、カーショーの引退試合で、大谷選手もホームラン打ち、感動の勝利でした。次の日の試合では、さらにカーショー 3000 奪三振のボブルヘッド人形をゲット。なんてついているのだろうか。また、約 2 時間の「ドジャーススタジアム見学ツアー」に申し込んで、トロフィーの数々を見て、グラウンドに降り立って、ダッグアウトにも入れたのはとてもよかったです。料金は、32.25 ドル (5,000 円)、これは価値ある安さでした。



ハリウッドサイン



ドジャーススタジアムグランド



エンゼルsstジアム



シアトル・スタバ1号店



ロサンゼルス・サンタモニカ

カーショーボブルヘッド人形

翌日は、ウーバーでハリウッド、ビバリーヒルズ、サンタモニカを観光、ひとり 100 ドル+チップ 20 ドル (18,000 円) でした。ちなみに球場での飲食、ホットドッグ 1 個、500ml ビール 1 杯で 33 ドル (5,000 円) でした。食べ物は高いとは聞いていたけど実感しました。友達に聞いたら、アルバイトの時給は日本の 3 倍だそうです。日本は物価も給料も上がらなかっただけで、アメリカは物価上昇に合わせて給料も上がっているんですね。

ロサンゼルス 6 泊の後、もう一つの目的、今回合流した友達のアラスカお家にお邪魔して、奥様の美味しい手料理をご馳走になりました。流石、アメリカ、家にはバーベキューコンロが有り、分厚い肉でホームパーティーです。

ロサンゼルスは気温 30 度、アンカレッジは気温 8 度、友達の車で大自然いっぱいのアラスカを案内してもらいました。既に山の上は雪が積もっていて寒い位でした。

9月26日シアトルに向けて出発、イチローのいたマリナーズの球場で、ドジャースとの試合観戦です。T モバイル・パークでは、ア・リーグホームラン王のローリーも見れました。残念ながら、大谷選手は、最終試合の前日の試合で唯一お休みでした。

シアトルは、スターバックス発祥の地、1 号店はパイクプレイス・マーケットと言う所にあり、入るのに長い列が出来ていました。また、マーケットで、シアトル名物クラムチャウダーを美味しく頂きました。

ロサンゼルス、アンカレッジ、シアトルと 3 個所を飛行機で移動しましたが、時差もあり、温度差もあり、広大なアメリカ、進んでいるアメリカを実感しました。まさしく「百聞は一見に如かず」まさに自分の目で見て、元気に貴重な経験・体験の出来た素晴らしい旅行でした。

PHOTO GALLERY

矢場岩男作品集より

多摩市地域支部 矢場岩男（昭 43・商）



セキレイ・アルビノ(伊勢原の田圃)



キジ・アルビノ(銚子市)



ショウビタキ・メス(昭和記念公園)



ワソ・オス(北本自然観察公園)



ソウシチョウ(多摩市・桜が丘公園)